

◎アンクル、トムス、キャビン

文科四年 鹽川國

諸姉は十九世紀の後半に北米合衆國に於て開かれた大きな内亂を御存知でおざいませう。即ち一千八百六十一年の南北戦争なのでござります。その結果として我々人として忘るべからざる一つの大きな事があるのでございます。それは外でもございません。實に奴隸が解放せられて自由の空氣の中に楽しい生涯を送ることが出来るやうになつた事なのです。しかばこの戦争は如何にして起つたのであるかとその原因を考へて見ますと或は南の州と北の州と政治上の争ひもあつたでございませう。或は財政上の争ひもあつたでございませう。しかし又こゝに一つの大なる原因と云ふは社會上の争いなのでござります。しかば社會上の争ひとは何を意味するのでございませう。即ち北の州は奴隸を開放し南の州はやはり奴隸を使用すると云ふこの二つの主義の衝突を云ふのでござります。しかばこの奴隸開放の思想を世界の人、否、少なくとも米國人の頭の中に深く刻みこんだものがなければなりますまい。今日御話いたしますアンクル、トムス、キャビンは實にその思想を起こさしむるに與つて力あつたのでござります。

アンクル、トムス、キャビンは之を日本語に譯しますとトム叔父さんの家とでも申しませうか。黒人を主人公として奴隸主義の慘状を満天下の志士仁人に訴へ、奴隸開放主義の公明正大なることを皇

天のもとにあかしたもので米國はおろか、大凡世界の文學に於て千載不朽の其の一產物として數へらるゝ小説なのでござります。

はじめて世の中に紹介せられましたのはワシントンのナショナル、エラと云ふ新聞に一八五一年六月五日から三ヶ月の契約で出すことになつたのでござります。しかるに著者が筆をとつて書けば氣は立ち心はもえ筆はすんでとうとう十ヶ月目の一八五二年四月一日にやつと掲載し終つたのでございました。一八五二年十二月即ちかの南北戦争の起る九年前途に一冊の本となつてボストンから發行せられるやうになつたのでござります。然るに非常なる高評を以て購はれて八週間に十万冊。一年に二十萬冊。一八五六年四月二十八日まで即ち約四年の間に三十一萬三千冊を賣つたと云ふことでござります。以上は米國での話ですが英國ではどんなであつたか調べて見ますとはじめて一八五二年五月にロンドンに於て刊行せられました。しかしあはじめはうれませんでした。と云ふのは彼等歐洲人はニグローのあはれむべき生涯についてあまり多く知らなかつたからなのでございます。しかるに後には非常によくうれましてロンドンの或る本屋の如きは毎日毎日一万冊づつ四週間出版したと云ふ事でござります。そして一般の人に充分に供給するには一千人を雇はねばならぬと書いてありました。フランスでは今でもパリの大通りを通つて見るところの本を本屋の店先に於て澤山見ることができます。

一八六二年十月一日まで即ち發行されてから約十年たつた後に於て早くも十八ヶ國語に譯せられてをるのでございます。即ちフランス。ドイツ。オランダ。デンマルク。スウェーデン。ポルトガル。イタリー。ナルシヤ。ロシア。ボーランド。マジヤール。ウエンド。ワラキヤ。アルメニア。アラビア。ローマ。で支那及び日本にも翻譯せられたと云ふことである。とある本に書いてございました。而してこれは二十種類のドラマに仕組まれてヨーロッパの何所の首府でも演せざれ又合衆國に於ても盛んに演せられてをるのでございます。こんなにただ一篇の小説が脚なくしてよく世界をめぐり行く處として讀者觀客の同情をひき心をうごかさないことはないのでございました。しかばこんな世界的のしかも人道の上に一大福音をもたらした書は誰れによつて書かれたのでせう。ああ實に婦人の手によつて書かれたのでござります。ハリエット、ビーチャー、ストウ夫人によつて書かれたのでござります。夫人はライマン、ビーチャー氏の女で、一八一二年六月十四日にリツチヒルドに生れました。十五から廿一までハートフォードの學校で學びました。後神學教師カルビン、ストウ氏と結婚いたしました。このアンクル、トムス、キャビンを著述いたしましたのはかの女の四十才の時なのでござります。一教師の妻として當歳の兒を抱きつつ書いた小説はよくグランド將軍が十萬の兵を以て南軍の壘を陥れたよりも恐らくはそれ以上にまさつた効をしたのでござります。こんな立派な書を私のおばつかぬ英語の力でもつてたどりたどり課外に譯したもの

でござりますから原本の興味の半分以上もないだらうと思ひます。けれどもどうぞしばらくお耳をおかし下さいませ。

この小説の主人公のトムはケンタッキー州に住んでゐる奴隸賣買商シエルビー家の奴隸で最も正直な忠實なものでおさいました。彼の家を主人の家のごく近所にもち妻のクロード、子供三人つまり五人暮らしの楽しい平和な圓満な家庭を作つてをつたのでございました。しかるに主人は商賣上の失敗から不幸にしてトムを同じ仲間のハレーに賣らねばならぬ事になつたのでござります。トムは奴隸のこと故主人の命これ如何せむ。泣く泣くこの圓満な家庭をはなれ又このよき主人をはなれて遠く遠く永久にただ獨り賣られて行くのでございました。今日はトムの賣られて行くところから御話をいたしませう。

それからトムは賣られてワシントンに行つたこと。數日滯在して後の美しいミシシッピー河を下る船中で可愛き少女のイバと知り合ひ遂にその慈悲によつて彼の女の父のセントクレアに買はれました。トムの唯一の慰安者で且無二の友であつたイバの病死、續いておこる主人セント、クレアの横死にトムは悲歎の絶頂まで達したこと。セントクレアの妻は夫の死後家と奴隸を悉く賣つたこと。トムは慘酷なレグトリーに買はれ綿つみの勞働に從事したこと。遂にトムはこの薄情な主人の鞭撻によつて小屋の中に死に瀕して呻吟してゐたこと。最初の主人の息子ジョージ、セルビー、がトムを

買戻しにはるばる來たこと。主従の對面、トムはこの喜びのあまり遂に死んだこと。シェルビー歸宅しその由を妻子に語り共に悲歎に沈むこと。シェルビー遂に奴隸を開放して自由のもとに幸福な生涯を送せるやうになつたこと。

について簡単にお話しました。

——今日は世界歴史の第一頁である。今日の世界を以て真正の世界歴史は其程を發する。社會的煩悶は歐西社會に於ては既に彼が如く、而して我に於ても亦多少性質の差を以て之無きに非ずである。世界全體の現状を達觀すれば、個人でも、家族社會でも乃至世界社會即ち列國關係でも、其の均齊は不安定均齊に止まり、隨つて社界的煩悶は一般である。就中列國關係に於ける均齊の不安定は、最も重大にして危殆なる情勢に於てある。噫。今より一世紀の後、世界の地圖は果して如何に易るべきか。(中略)併しながら、斯の如き世界的大活劇を支配するものは誰であるか、天に非ずして實に人である。他人に非ずして而して吾人、即ち今日の世界歴史の第一頁に於ける活動人物である。(中略)是れ空想の問題に非す、是れ事實の問題である。觀察に始りて經論に終る。即ち是れ丈夫の事である。——建部遜吾(世界列國の大勢)

研究

◎ショツ・ベンハウエルの女子に就いて

の論文と、ラスキンの「セサム、アンド、リリース」中のリリース、オア、クウェインス、ガーデンス」とを読みて、兩者より提供せられし若干の問題を思ふ。(承前) 千葉安良

(二) 兩性論の範圍に入るべき諸問題

本章に於いて考へます事項は、既に第二論に於いて豫告致しておきましたやうに、男女の存在の意味から、その差異、その關係、夫婦論、結婚論と云ふ誠に重大なのでござります。そして其の内容は所謂婦人問題に關する所が多く、婦人問題解決の一要素となるべきものであります。且つ又問題それ自身が人生の意義を斷

する骨子となる性質のものなのであります。

それ故本章の所論は、おほらかに「女性の概念」をして、本章の結論の上に立脚して第一章に論じたものとは又大層面目のちがふ最も嚴肅なる最も深さのある批評や立論がせられねばならないのであります。

此の用意を以て私が本問題に筆を執らうと致しました時に私は次の二點から今日此の問題に對して自らの庶幾ふやうな批評や立論をする資格に著しく缺けて居ることを感じたのでござります。それは、第一、私は世の中の半分も見ない若輩であり、その上人の娘と云ふより他の資格を享有したことの無い身であるので、此の批評立論に必要な方面に於いて、その必要な程度にまで世の中の實際を經驗知